

## 令和6年度 第1回松本市公民館運営審議会結果

日 時 令和6年6月7日(金)  
18:30~20:00  
会 場 松本市中央公民館4-3

### 1 開 会

### 2 委員長あいさつ

先日、とある会議で文部科学省職員から「社会教育は、現場・社会・大学等において、大きな転換期を迎えている。今後、より社会教育的な視点が求められる」という話があった。やはり、自分事として社会を捉え、自治的に考えて進めていかなければ将来のビジョンが見えない社会へと移行しており、そういった意味では、これまで社会教育や公民館がやってきたことが求められている。

付け加えれば、「学びを通じて地域(土台)を創る」ということも大切な点になるので、公運審で議論しながら、より良い公民館のあり方を考えていきたい。

### 3 自己紹介

#### (1) 委員の交代(委員任期:令和5年8月1日~令和7年7月31日)

##### 【区分】学校教育

阪口和彦氏(松本市立松島中学校長)→馬場英晃氏(松本市立大野川小・中学校長)

##### 【区分】家庭教育

熊谷留理子氏(松本市PTA連合会参与)→高木守氏(松本市PTA連合会顧問)

※任期は前任者の残任期間・・・令和6年6月7日~令和7年7月31日

#### (2) 各出席委員及び事務局から自己紹介

### 4 松本市公民館運営審議会について

事務局から、公運審の役割や設置根拠、任期、これまでの経過等について説明

### 5 内 容

#### (1) 令和6年度生涯学習課・中央公民館事務事業の概要について

##### ア 事務事業の概要

今年度から、特に「自治や協働」という点を意識するとともに、公民館活動を通じて新たな担い手が発掘され、つながりを構築していけるようにするため、内容を大幅に見直したのでご確認いただきたい。

##### イ 令和6年度における重点目標(事務局から主な点を説明)

##### (ア) コミュニティスクール事業

昨年度から、大野川小・中学校で国型を導入した。地域学校協働活動推進員を

配置したことで、学校側の負担軽減につながっただけでなく、学校運営協議会でも活発な議論が行われている。次年度から、「1地区内に小中学校が各1校設置されている箇所」と「1校で複数の地区を対象とする箇所」の2か所への設置を目指し、年度内に調整を進める。

(イ) 子ども・若者の居場所づくりと社会参画事業

既に中央公民館に設置されている若者のフリースペースについて、今年度から7地区(第三・城東・白板・庄内・島内・芳川・寿)での開設を進める。このスペースは、単に若者が学習のために利用するだけではなく、その先に地域とつながる可能性を持っている(詳細は「5つの重点戦略」で説明)。

勤労青少年ホームでは、若者の居場所づくりとしてヤングスクール講座を実施する。また、様々な事情によって家で過ごしている子ども・若者の居場所として開設している「居場所支援ほっとスペース」は、学校指導室と協力しながら、引き続き松原・笹賀地区で運営する。

(ウ) ICTを活用した多様な学びとコミュニティ創出事業

昨年度からDX推進本部と連携しながら実施している、スマートフォンの使い方等を学ぶ講座は、学習効果を高めるために、住民の生活課題につながるような切口(例:講座内で災害対策アプリを使用)を設けながら進める。

(エ) 公民館等長寿命化事業

Mウイングでは、令和4年度から4か年計画で補修を進めており、今年度も計画的に進める。

(オ) 重要文化財旧松本高等学校校舎冷房設備事業

建物保全・活用の観点から、今後、第2期計画を策定するなかで夏場の冷房対策を進める。なお、それまでの間はスポットクーラーで対応する。

(2) 5つの重点戦略について

今年度から重点戦略のなかに「地域拠点(自治組織の再構築)」が位置づけられた。これは「高齢化や担い手不足の課題を抱える町会組織や公民館事業を再構築していく」というもので、地域づくり課と中央公民館で進めていくことになる。

公民館としては、現状「前例踏襲で運営されがちな行事と現在の住民ニーズにギャップがあり、参加意欲の低下・運営側の負担につながっている」という問題を踏まえ、「若者居場所づくり事業(フリースペース)の対象地区拡充や、地域の実情に応じた地区事業の見直しを進める」ということで、今年度取組みをスタートした。

特に「地区公民館フリースペース開放事業」については、若者が気軽に公民館へ出入りできるようにすることで、「多世代が交流する公民館」へ変えていくことはもちろん、そこから地域住民や公民館職員等を通じて地域とつながることも視野に入れている。そういった点から、受託先は地区の住民組織が望ましいが、現状は1部の地区のみ、受け皿になり得る団体が見つかっている。そこで、今年度は住民組織以外の委託先も含めて、まずは1年間運営する。その後、来年度中に検討の上、令和8年度からは順次住民組織で運営できるように進めたい。

## 委員からの意見等

- ① 地区公民館のフリースペース事業の主旨からして、住民組織による運営が望ましいが、見込みはあるのか。また、住民運営の難しさはあるのか。

(回答)いくつかの地区では、核になりそうな団体やキーパーソンもいるため、公民館職員等を通じて働きかけを行う方針。ただ、住民が交代で付き添うことになるため、特に開設時間が長時間(月～金 9:00～20:00・土日祝 9:00～17:00)になる館では、人選が難しい現状もある。

- ② 現在、地域のまちづくり協議会では組織改編等を検討しており、子育て支援部会やボランティア部会等が活動を模索している。フリースペースの受託先を検討する際は、出来るだけ広い範囲の住民と話し合うように進めてほしい。この事業は、若者を地域全体で育てるきっかけにもなり、住民と若者がつながりながら一緒に進めていける可能性が高い。

(回答)委員ご指摘のとおり。今月中に7地区職員が集まって方向性等について検討するため、この点は共有しながら進める。

- ③ 5つの重点目標「自治組織の再構築」の戦略に、「町会のあり方…再構築する」と記載されている。ここでいう「再構築」について、具体的にはどのように再構築するのか。それは、「誰もが主体的に参画できること」であり「自分たちが大切だと思うこと(事業)を構築していく」ということであり、その点を意識して進めると良い。

### (3) 情報交換

安曇・笹賀公民館主事からの事例発表後、全体で情報交換を行う。

#### ア 国制度コミュニティ・スクールの取組みから(安曇公民館 羽田大樹 主査)

##### 説明内容

大野川小・中学校では地域学校協働活動推進員が配置され、昨年1年間の活動から、地域(住民・資源)をうまく活用しながら展開していると感じている。乗鞍高原や山といった自然を活用した事業、運営協議会での活発な意見交換と事業化など、まさに「地域愛を育てる」という感覚で溢れている。

公民館職員としてCSの取組みのなかで出来ることを模索する中、「従来地域で把握している課題を、学校・地域を巻き込みながら何かできないか」という視点から考えた結果、学校登山を切口に進めることになった。

現状、学校登山は、危険性(保護者・子ども・学校側)や引率の負担(学校側)等により、全国的にも減少傾向にある。大野川では、地元ガイドが主体的に関わりながら、平成13年から令和元年度まで奥穂高岳登山を二泊三日で実施してきたが、全国的な流れの中で検討の必要性が生まれていた。そこで、公民館での事業化も視野に、講座として住民と登ったり学校側と検討したりした。

令和5年、国型CSの取組みのなかで、広く住民なども巻き込みながら学校登山について考える場を構築しようと、公民館側で働きかけた。登山実施後の11月29日(水)、地域学校協働本部と安曇公民館等が中心となり、「学校登山の未来を考える」と題した、意見交換会等を実施した。生徒や教員、PTA、住民などから

幅広い意見が出される中で、登山を切口に「地域・学校・子ども」のことを考える機会にもつながった。

公民館としても、CSの取組みのなかで「話し合い・考える場」を構築できたことは意義あること。現在、大野川で進めるデュアルスクールの取組みから、「これからの学校は特徴を持って選ばれる学校づくりを進める」ということを意識しており、そういう点からも、学校登山は大切にしていきたいと感じている。

#### 委員からの意見等

- ① 公民館が間に入り、様々な人たちがお互いに理解し合える場を構築したことで、特色ある活動につながられている。
- ② 「登山を子どもたちに経験させたい」と考えているが、自分の子どもが登山する際、落石事故があつて日帰りになったこともあったので、学校は登山に敏感な面もあると思う。また、二泊三日は、体力的に負担がかかるのではないかと。  
(回答)以前よりも、子どもたちの体力が低下しているという認識は持っている。ただ、登山道は年々整備されているし、トイレが洋式化されるなど、登山するための環境整備は整っている点を踏まえると、むしろ二泊三日にする方が体力面からも安全だと考える。また、落石事故は懸念される部分ではあるが、これまで20年近くの登山で一度も事故はない。それも、地元ガイドが長年の経験と当日の天候等の状況を鑑み、行程などをその場でコントロールしている点大きい。
- ③ 部活動の地域移行によって、これまで学校で当たり前に関わってきたことが低下していくことも考えられる。そこに公民館が関わることで、既存の学校内での経験不足を、地域で補うことが大切だと思う。

#### イ 居場所支援「ほっとスペース」の取組みから(笹賀公民館 矢口竜也 主事)

##### 説明内容

この事業は松原地区でスタートし、2か所目として笹賀地区にも開設された。笹賀での始まりは、たまたま松原で活動していた事業スタッフ(学校指導室等の職員)や利用者との接点を持つなかで、立地条件面などから話が進み、令和5年2月から試験的にスタートする。その後、松原は毎週木曜日、笹賀は火曜日に設けることで、同じ利用者が一週間に2回参加できることもあり、3月から本格運用に至った。

現状利用者は、主に小中学生と保護者、高校生などがいるが、対象を限定しているわけではない。子どもたちは多目的ホールで運動やゲームを行ったり、勉強したい子がいた場合は会議室も開放したりしているが、中間教室と同様、授業に参加したものと認められる。他にも、公民館のサークル等に協力をお願いし、料理や茶道を体験してみたり、地域に3名のボランティア(健康づくり関係者・ニュースポーツ実践者・不登校になった経験のある人)をお願いしたりと、「子どもと地域の交流」も進んでいるように感じる。

運営に当たっては、学校支援室等の運営スタッフと公民館職員が各1名以上参

加し、学校ではなかなかできない学年を越えた異年齢交流や、保護者同士で話す機会(情報交換)もあり、今後松本短期大学学生との連携も視野に入れている。スタートして1年が経過するなかで、「ほど良い距離感」で運営できていると感じていて、子どもたちにも「ここが自分たちにとって大切な場」と意識づけできるよう、自分たちで準備や片付けなども行う「自治的な運営」を進めている。

この居場所づくりは、子どもたちが地域住民と関わりを持つことが大切で、そういう場が公民館に設置できていることに意味があると考えている。

#### 委員からの意見等

- ① 公民館の可能性を感じる取組みで、スタッフと公民館がコラボする中で生まれたと言える。利用者や住民が自然とつながる窓口に公民館がなっている。
- ② 保護者への支援はとても大切なことで、何よりお互いに話ができる環境をつくっていることが良いこと。子どもが不登校で社会との接触が無くなったまま卒業してしまうと、本当に社会とつながりにくくなる。ただ、今回のような取組みがあれば、社会ともまたつながれるし、それが公民館で出来ていることが素晴らしい。他にもこういった場が出来ていくと良いことだし、本気になって地域で考えていくことが求められている。

(回答)同じ立場の人が集まって、悩みや課題などを話し合えることが本当に大切なことだと考えていて、この場が「心の居場所」になっていくように進めていきたい。

- ③ 時間を午後1時～4時に設定した意図があると思うが、場づくりをする際に、ターゲットに対して「どの時間設定が最も良いのか」は検討して進めると良い。
- ④ 年に40～50回程度、多様な人たちが交流することを目的にフリーマーケットを実施しているが、ほっとスペースのような居場所を求める人もいるので、もっと周知をしていけると良い。話を聞いて改めて感じたことが、「何か取り組んでいる」ということが大切で、完璧でなくてもやれる(やってみる)のが公民館だと思う。

#### (4) その他

向井委員長と事務局で相談するなかで、今年12月に、長野県生涯学習推進センター「地域づくり推進研修」を活用し、公民館運営審議会・公民館長会・公民館主事会合同研修会を開催したいと考えている。委員の皆さんから反対意見が無いようであれば、今後は各組織でテーマなどを調整し、当日はできるだけお互いに情報交換し合えるような研修会になるよう準備を進めたい。

現時点では候補日時等として、12月18日(水)午後、Mウイングホールを想定している(⇒委員了承)。

## 6 閉 会